SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

Report in Progress: Genealogies of Ordos Mongols

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 楊, 海英 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028675

【中間報告】

現代オルドス・モンゴルの家系譜について

楊　　海　英

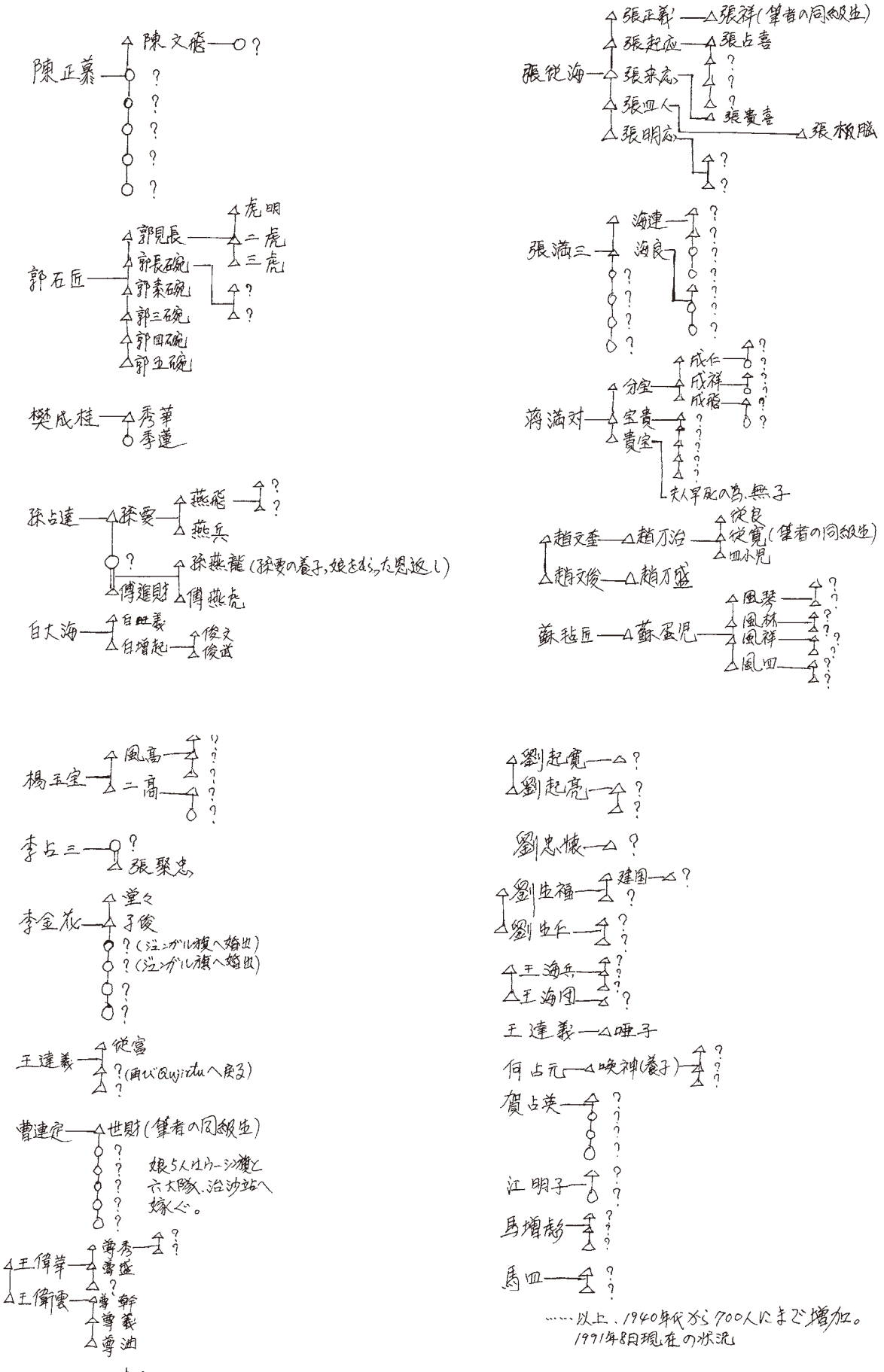
1991年夏から翌年の夏までに、私は内モンゴル自治区西部のオルドス高原で一年間、人類学的現地調査を実施した。調査中に多くの父系親族集団オボク（obuɣ）とヤス（yasu, 骨）について調べ、各集団固有の祭祀儀礼に関する情報を集めた（楊海英著『モンゴルの親族組織と政治祭祀―オボク・ヤス（骨）構造』風響社、2020年）。

モンゴル社会には七代まで遡る系譜を記憶する伝統があった。しかし、社会主義時代になってから伝統文化は「封建社会の残滓」として中国政府によって否定された為に、系譜を覚える習慣もなくなりつつあった。それに、字を読める人が多くなると、系譜を記録するものの、記憶はしなくなる。そして、文字による記録が紛失してしまうと、系統もまた失われる。このような激変中のモンゴル社会を私は目撃した。

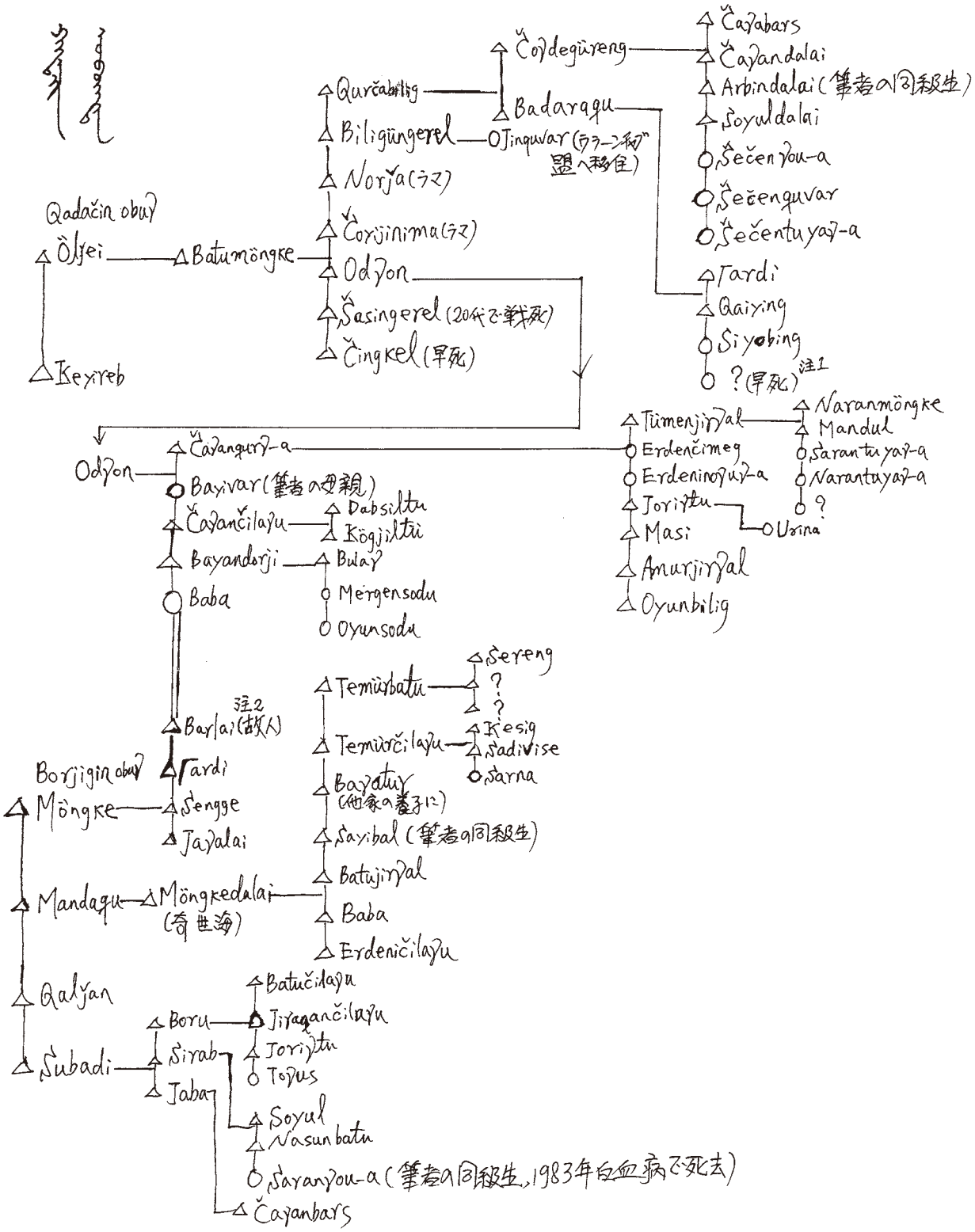
オルドス・モンゴル社会では数代前まで記憶している人は相対的に多かった。しかし、新疆ウイグル自治区の天山とアルタイ山中で遊牧するテュルク系のカザブ人は二十数代くらい覚えているのが、普通だった。私はオルドスに行く直前までカザフ人社会でフィールドワークをしていたので、両者間の大きな落差に驚いたものである。

私はオルドスでさまざまな父系親族集団のメンバーから可能な限り、その系譜を集めたので、今回はそれらを整理して中間報告として公開する。滞在中はまた各集団の移動と生業の変容、集団同士の婚姻関係についても調べた。また、同地域では19世紀末から中国人の侵入を受けて、激しい抵抗運動（duɣuyilang）が勃発していた。更に1935年冬からは毛沢東の中国共産党が南から侵略し、東からは日本軍も接近していたので、政治闘争も国際社会と連動していた。こうした近現代史については、既にその一端を報告しいる（楊海英著『モンゴル人の中国革命』ちくま新書、2018年）。今回は、同地域に侵入して来た中国人の系譜も公にする。今後、調査研究の成果を一層体系的に上梓する予定である。

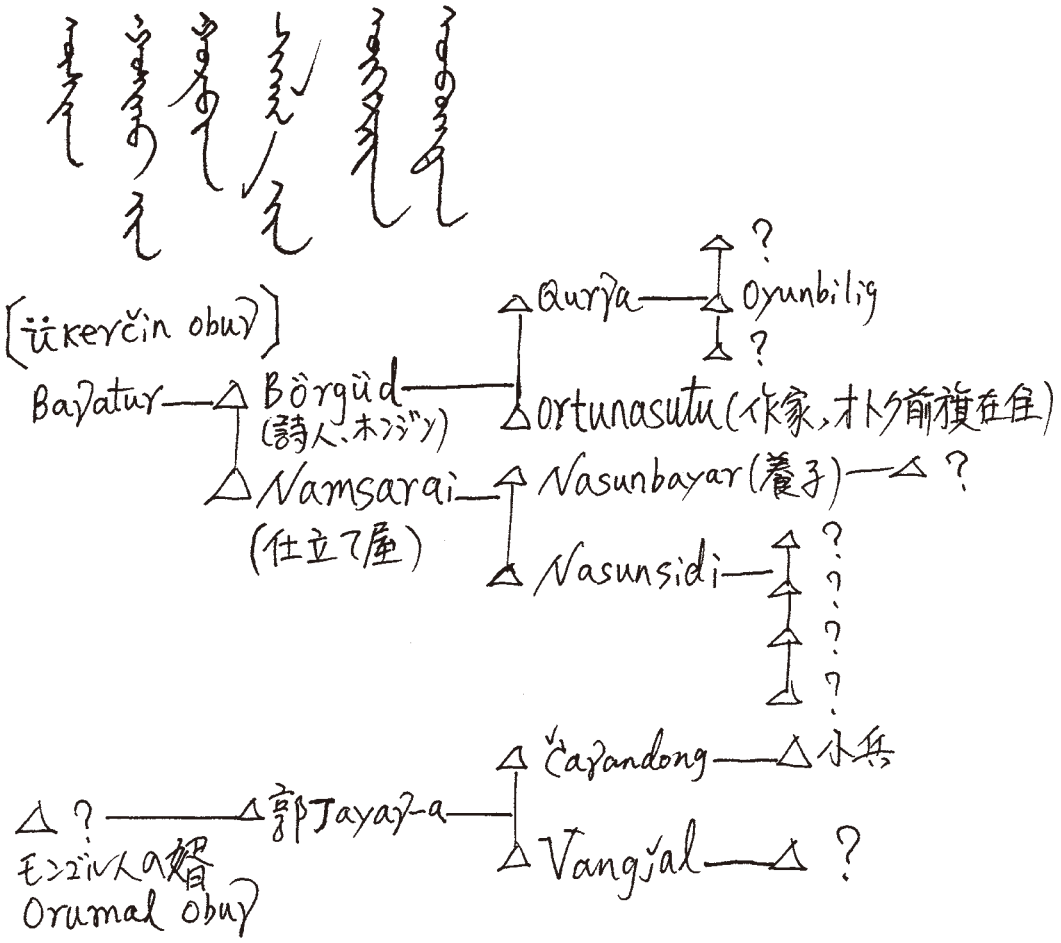
系譜図１：オルドス西部ウーシン旗オーノス・オボクの家系譜



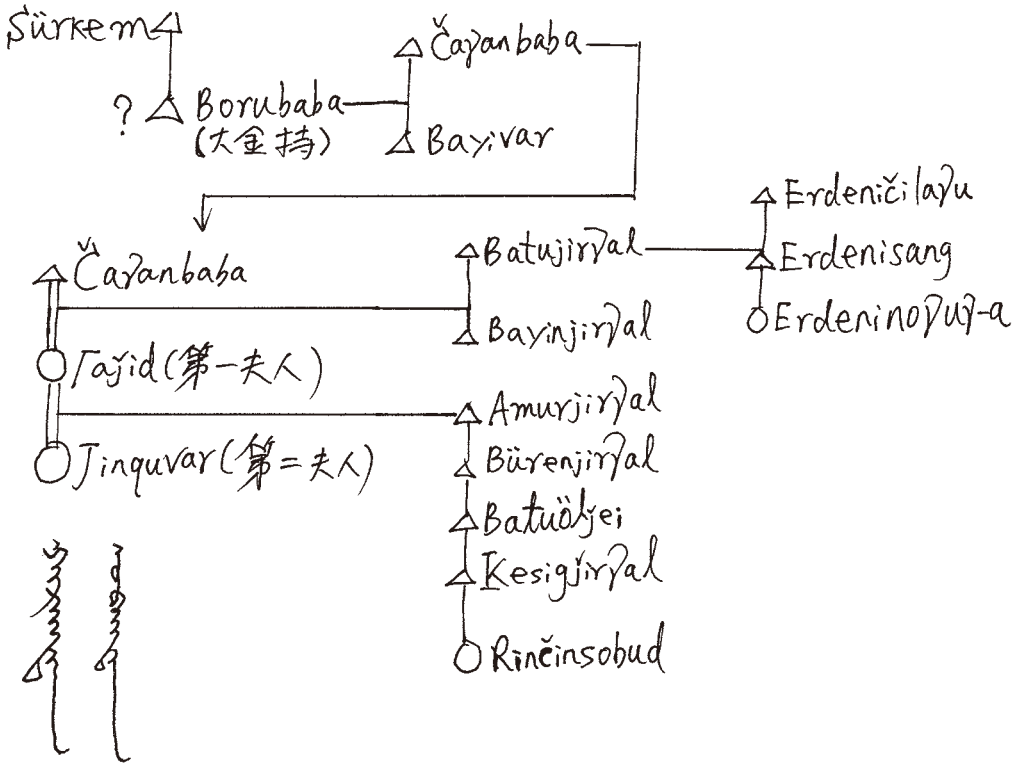
系譜図２：
中国陝西省からオルドス西部グルバン・サラー河谷に侵入してきた中国人たち



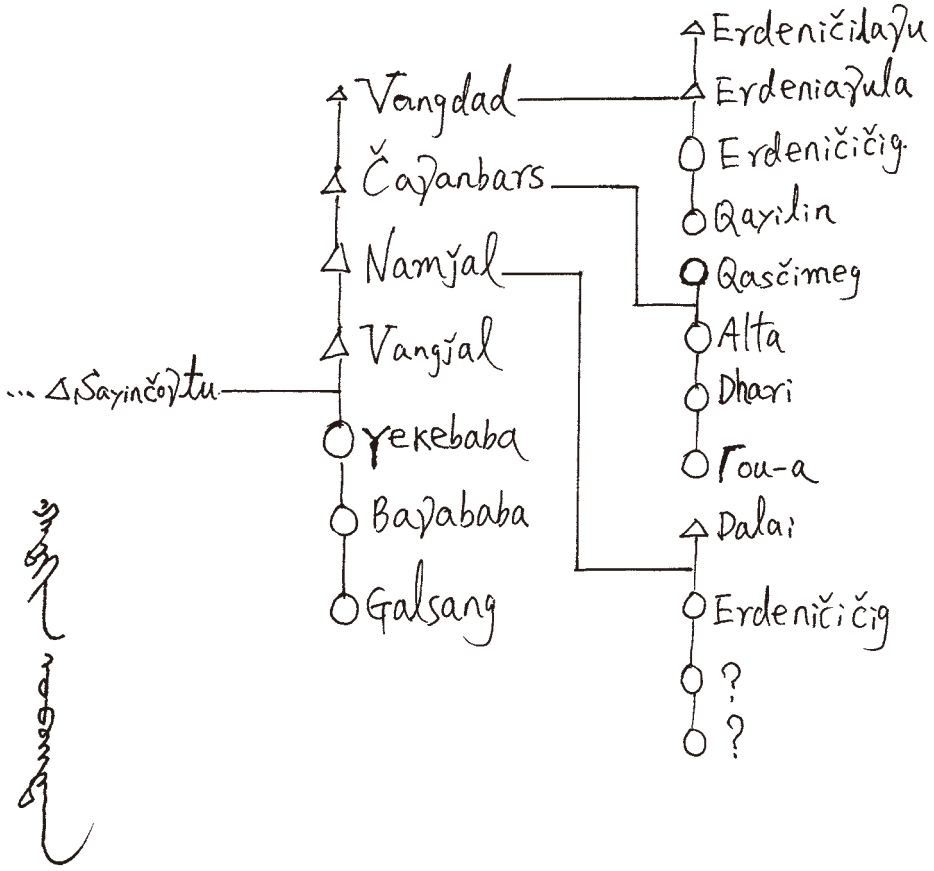
系譜図３：オルドス西部ウーシン旗ハダチン・オボクの家系譜（部分）



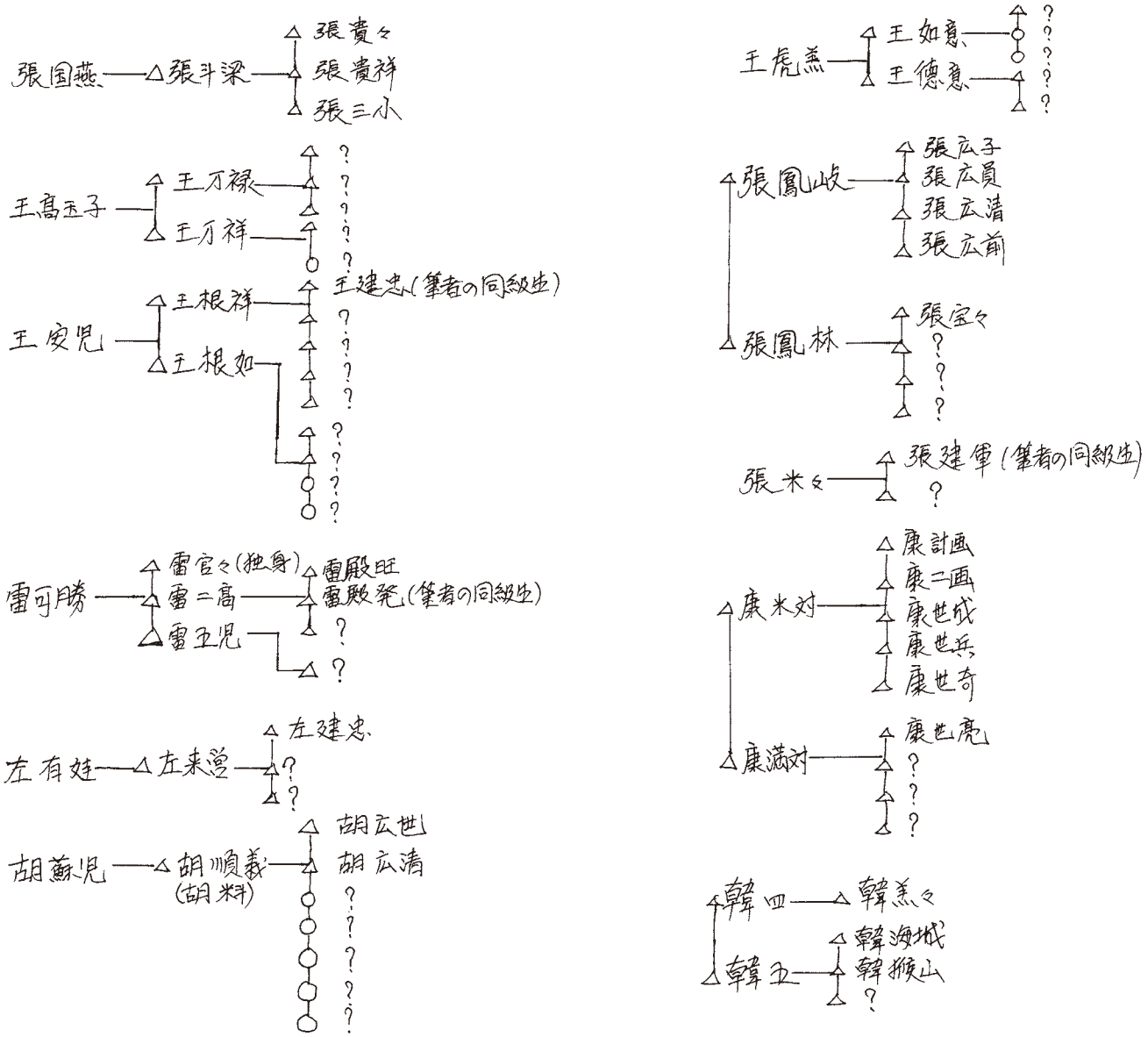
系譜図４：オルドス西部ウーシン旗ウクルチン・オボクの家系譜（部分）



系譜図５：オルドス西部ウーシン旗ガルハタン・オボクの家系譜（部分）

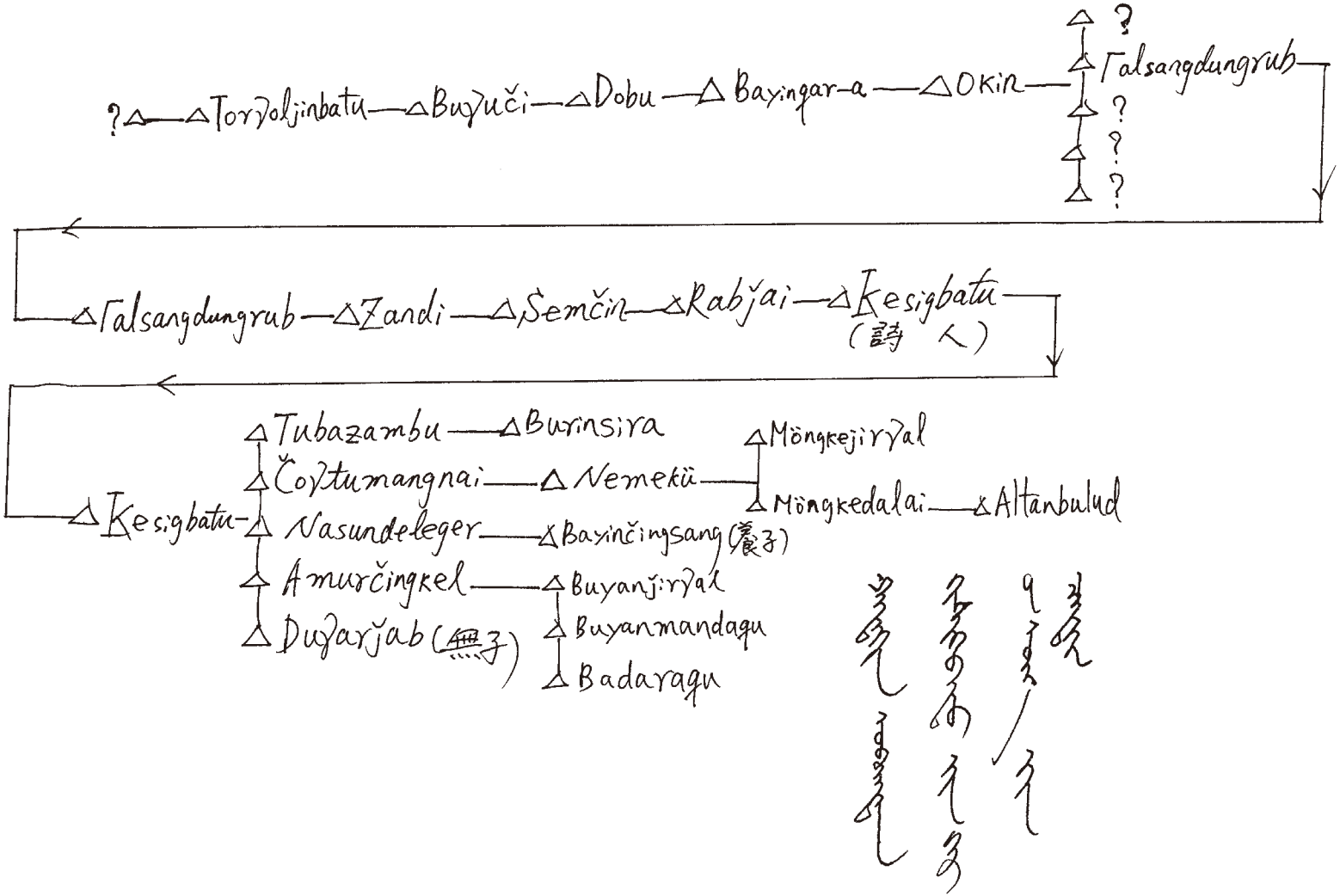


系譜図６：オルドス西部ウーシン旗ガタギン・オボクの家系譜（部分）

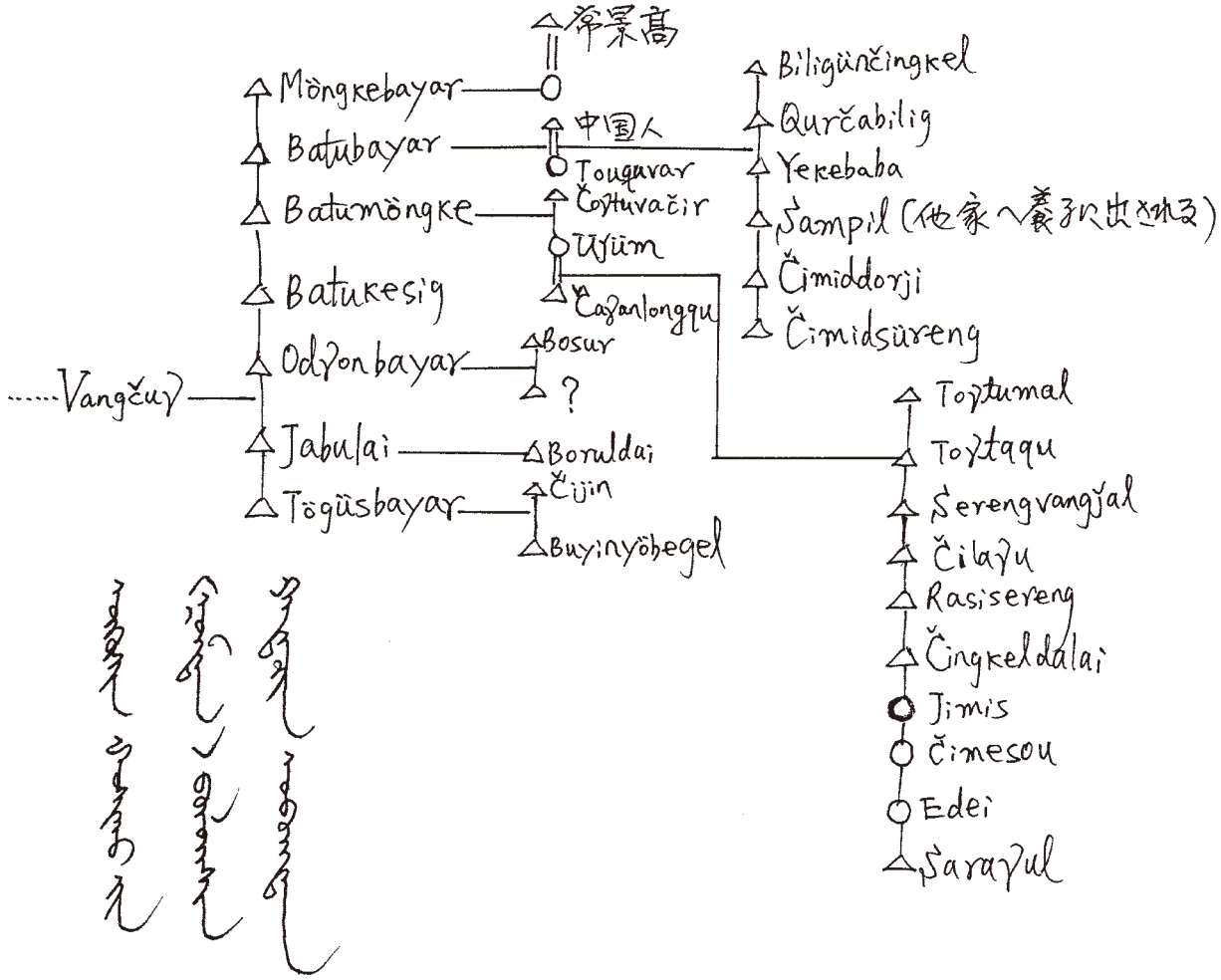


系譜図７：中国陝西省からオルドス西部チョーダイ平野に侵入してきた中国人たち

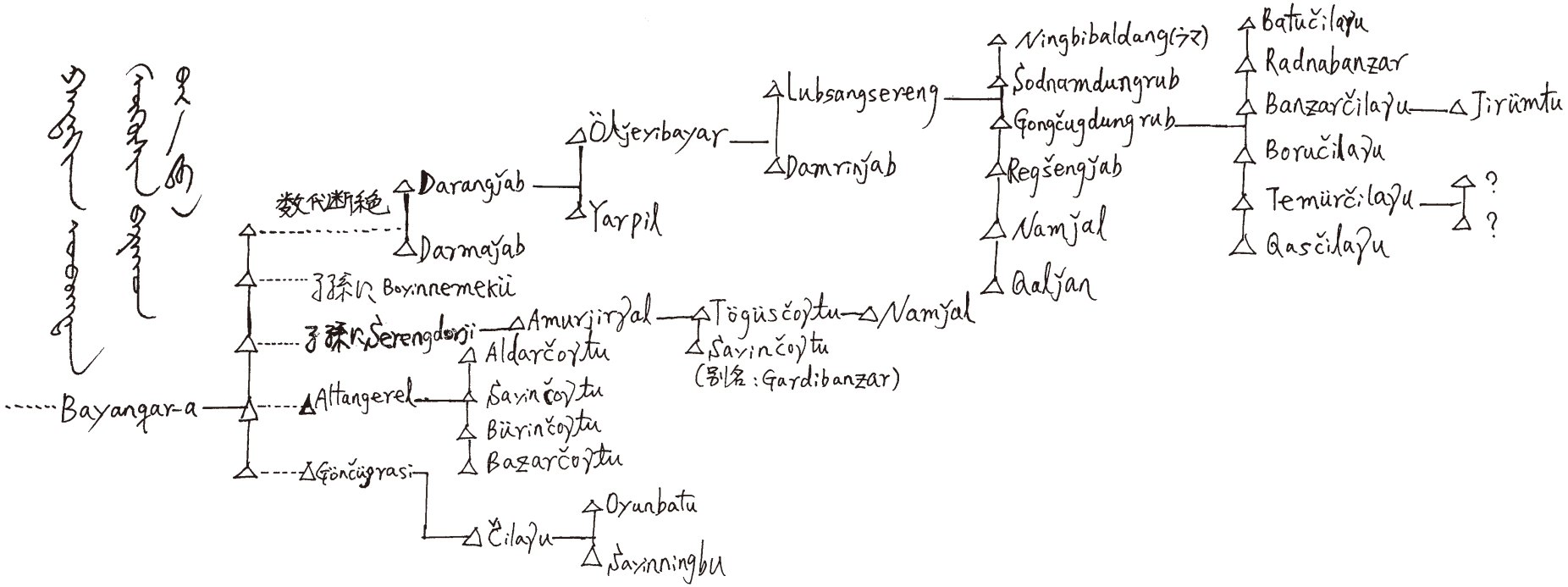
系譜図８：オルドス西部ウーシン旗ダー・クレーの貴族の家系譜（部分）



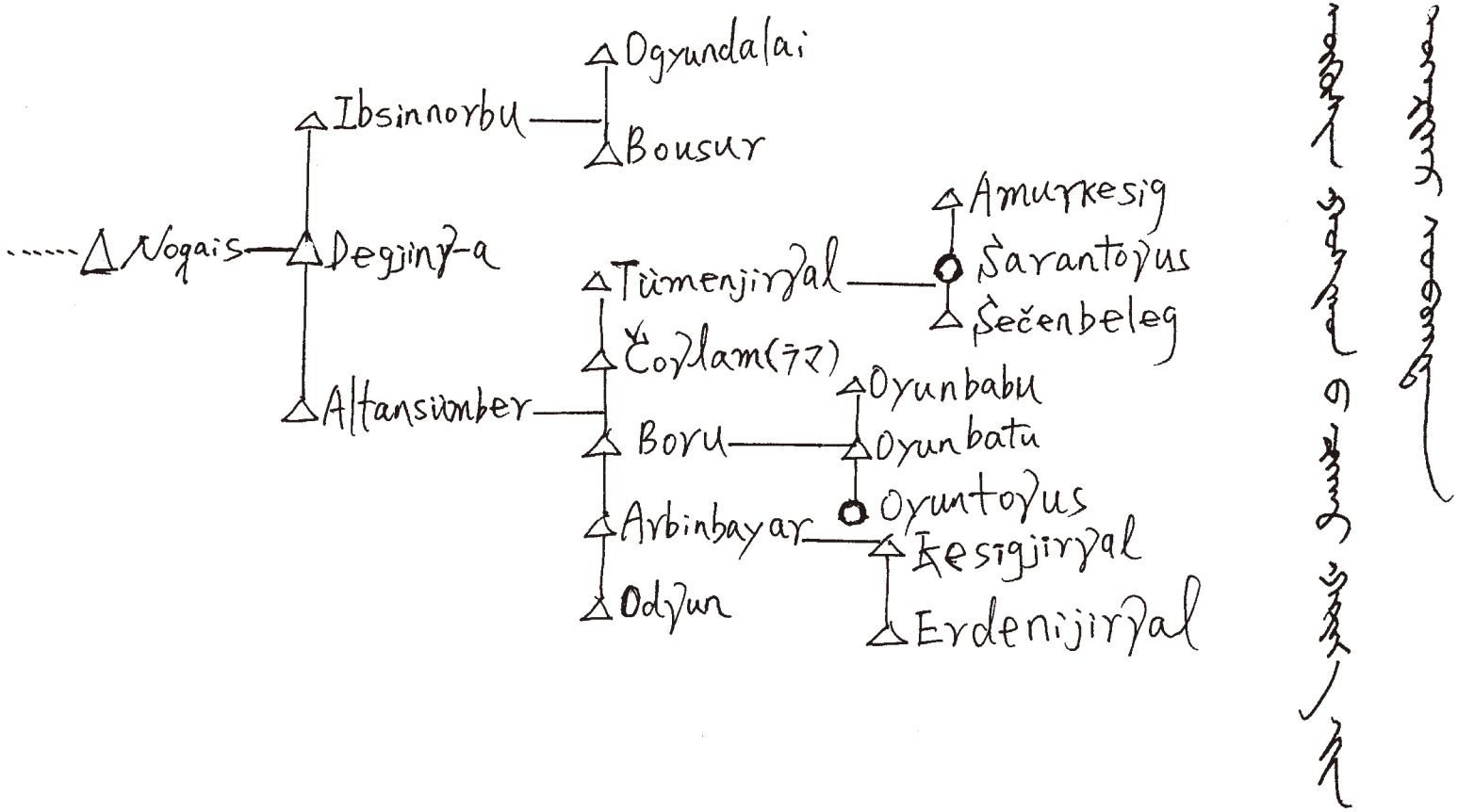
系譜図９：オルドス西部ウーシン旗ガタギン・オボクの家系譜（部分）



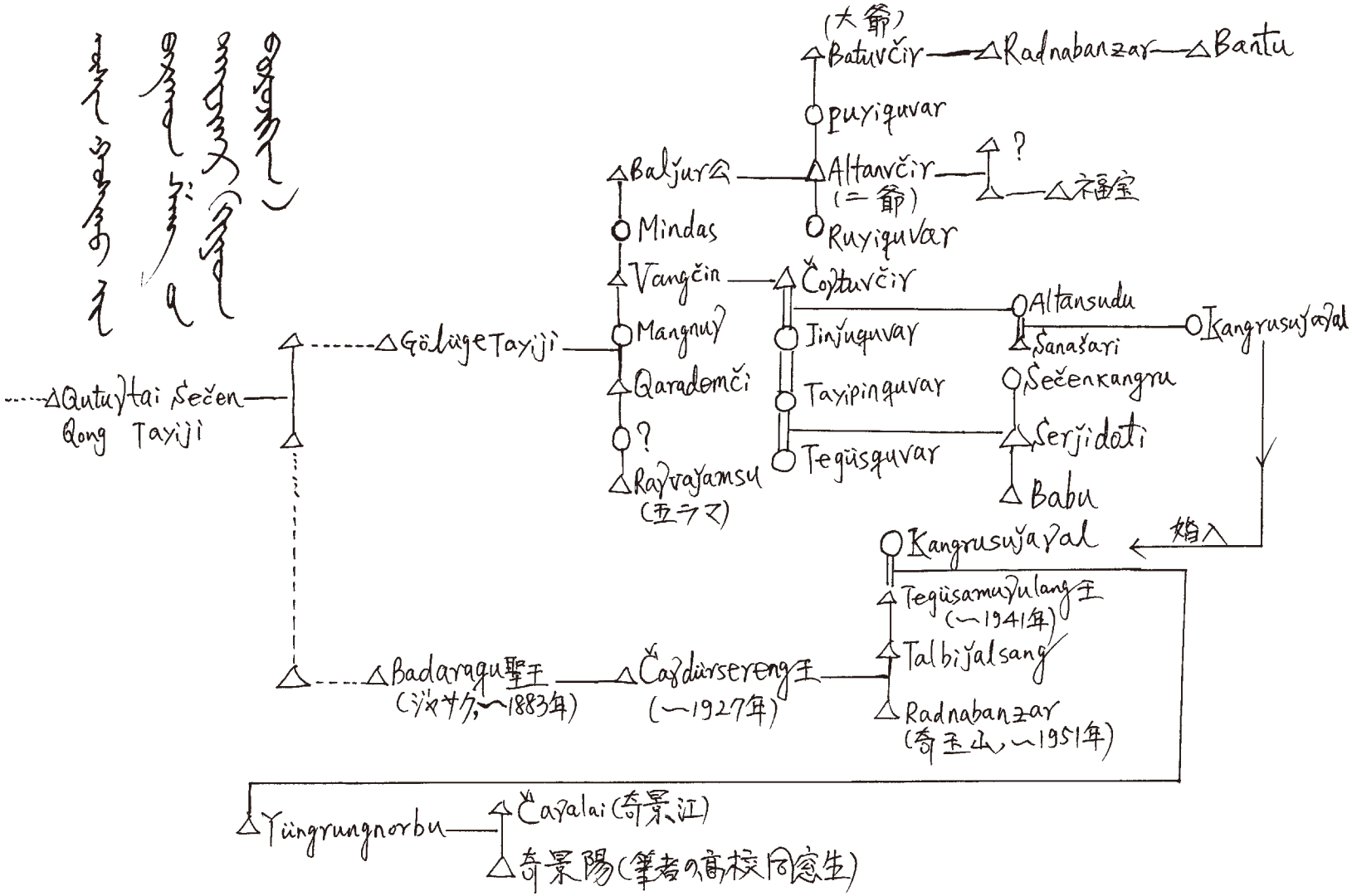
系譜図10：オルドス西部ウーシン旗カトリック教徒ハダチン・オボク等の家系譜（部分）



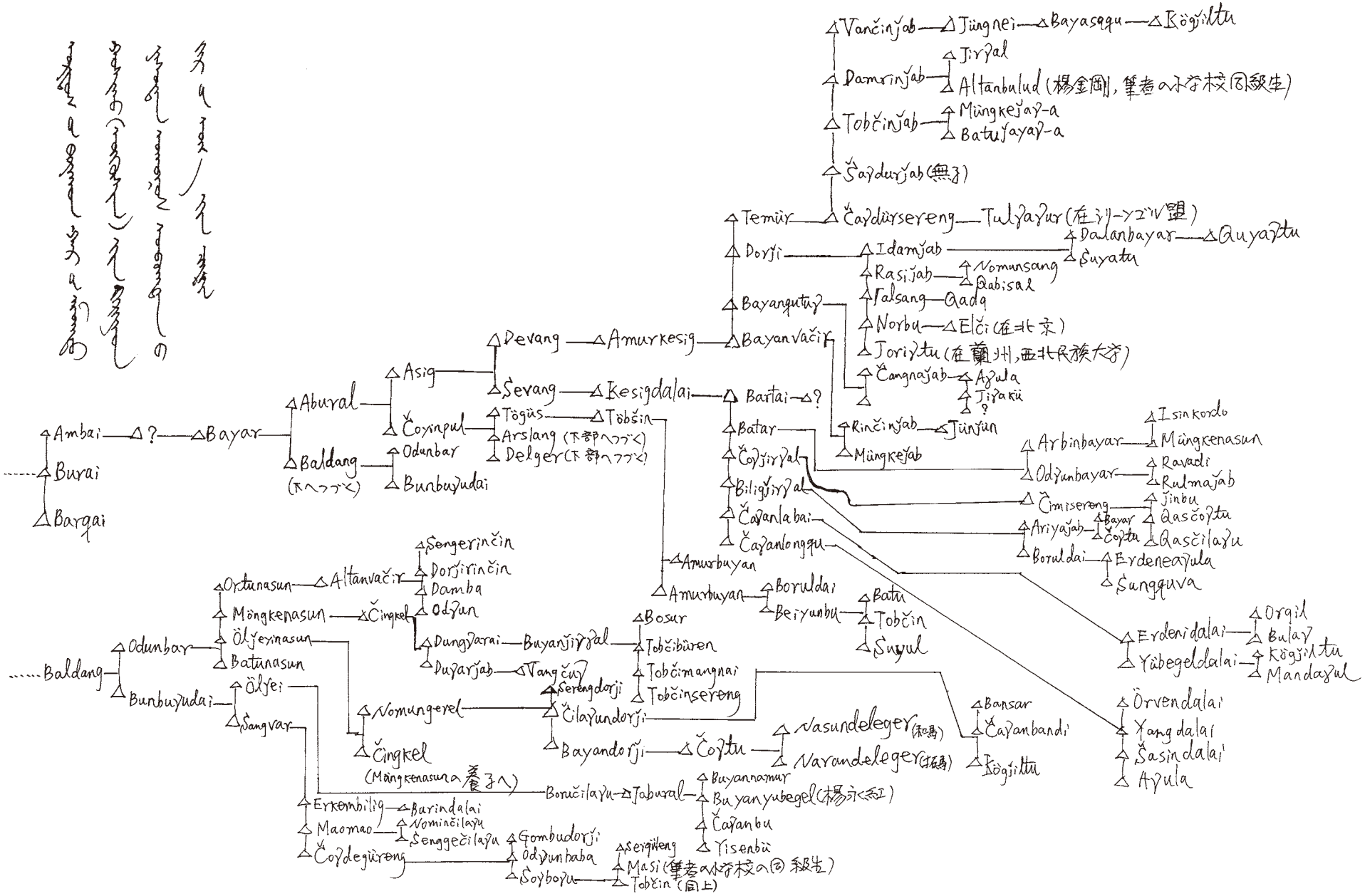
系譜図11：オルドス西部ウーシン旗ガタギン・オボクの家系譜（部分）

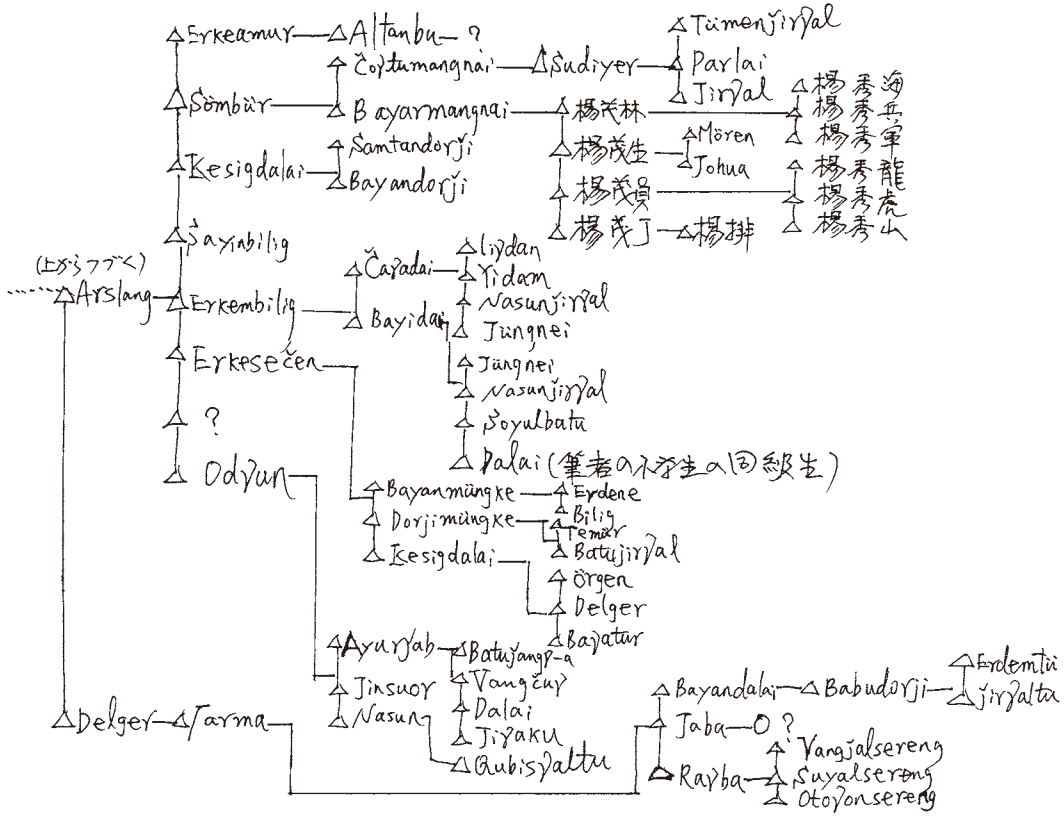


系譜図12：オルドス西部ウーシン旗トゥクチン・オボクの家系譜（部分）

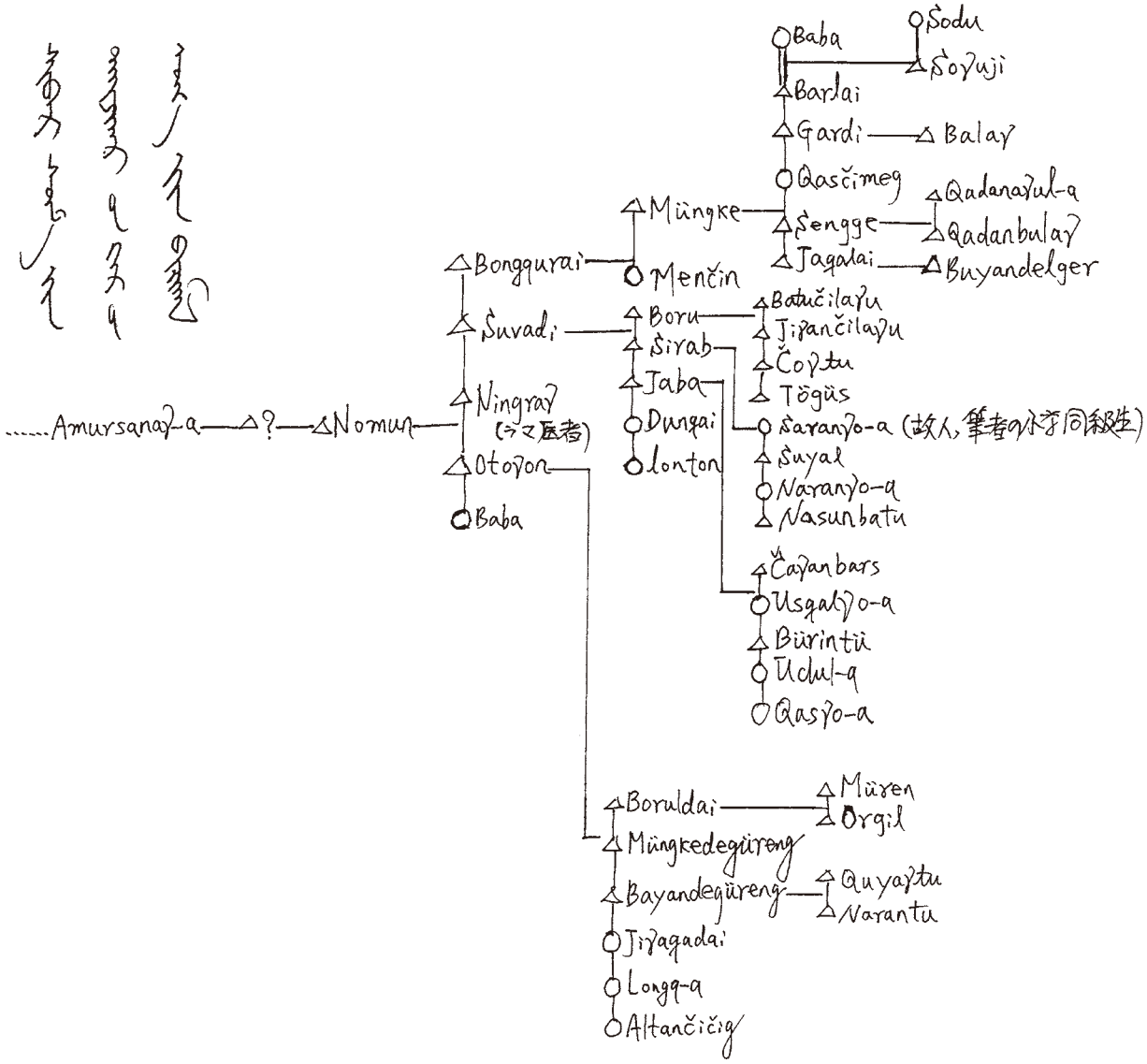


系譜図13：オルドス西部ウーシン旗西公シャンの貴族の家系譜

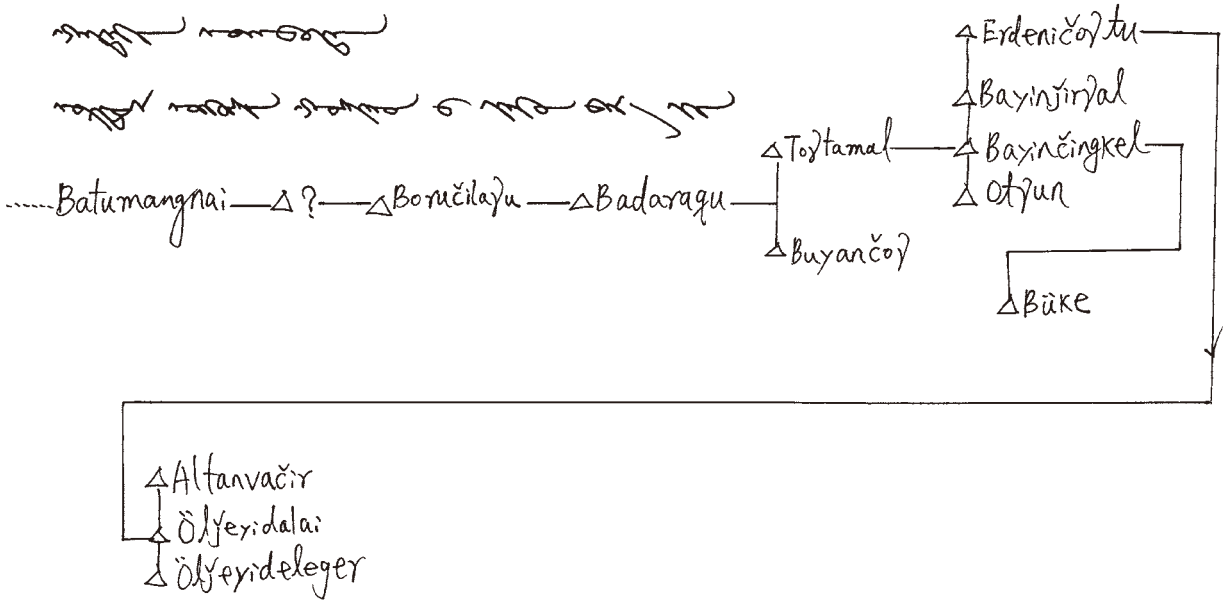

Ambai
?
Bayar
Burai
Barqai
Abural
Baldang
(下へつづく)
Asig
Čoγinpul
Odunbar
Bunbuγudai
Devang
Amurkesig
Sevang
Kesigdalai
Tögüs
Töbčin
Arslang (下部へつづく)
Delger (下部へつづく)
Temür
Doγγi
Bayanγutuγ
Bayanvačir
Bartai
?
Batar
Čoγjirγal
Biligγirγal
Čaγanlabai
Čaγanlongqu
Amurbuyan
Amurbuyan
Boruldai
Beiγunbu
Batu
Tobčin
Šuγul
Vančinγab
Jüngnei
Bayasaqu
Kögγiltu
Damrinγab
Jirγal
Altanbulud (楊金岡, 筆者の小学校同級生)
Tobčinγab
Müngkeγaγ-a
Batuγayaγ-a
Šaγdurγab (無子)
Čaγdürsereng
Tulγaγur (在ジリーンゴビ盟)
Dalanbayar
Quγaγtu
Šuγatu
Idamγab
Rasγab
Nomunsang
Qabisal
Talsang
Qada
Norbu
Elči (在北京)
Joriγtu (在蘭州, 西北民族大学)
Čangnaγab
Aγula
Jiγaku
?
Rinčinγab
Jünγün
Müngkeγab
Arbinbayar
Isinkordo
Müngkenasun
Odγunbayar
Ravadi
Rulmaγab
Čimiserong
Jinbu
Qasčoγtu
Ariγaγab
Bayar
Čoγtu
Qasčilaγu
Boruldai
Erdeneaγula
Šungquva
Erdenidalai
Orγil
Bulaγ
Köγγiltu
Yübegeldalai
Mandaγul
Örvendalai
Yangdalai
Šasindalai
Aγula
Bansar
Čaγanbandi
Köγγiltu
Šongerinčin
Doγγirinčin
Damba
Odγun
Ortunasun
Altanvačir
Möngkenasun
Čingkel
Öljeγinasun
Batunasun
Odunbar
Baldang
Bunbuγudai
Dungγarai
Buyanγirγal
Duγarγab
Vangčuγ
Bosur
Tobčibüren
Tobčimangnai
Tobčinsereng
Serengdorγi
Čilaγundorγi
Nomungerel
Čingkel
(Möngkenasunの養子へ)
Öljei
Šangvar
Bayandorγi
Čoγtu
Nasundeleger (和碩)
Narandeleger (右翼)
Erkombilig
Barindalai
Maomao
Nominčilaγu
Šenggečilaγu
Čoγdegürong
Gombudorγi
Odγunbaba
Šoγboγu
Seγγiteng
Masi (筆者の小学校の同級生)
Tobčin (同上)
Boručilaγu
Tabural
Buyannamar
Buyanyubegel (楊六郎)
Čaγanbu
Yisenbü



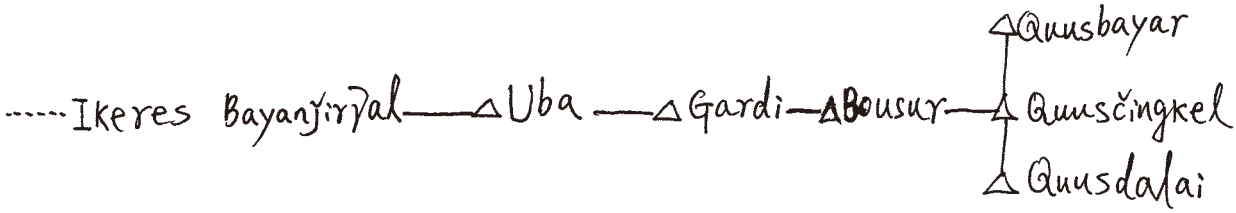
系譜図14：オルドス西部ウーシン旗オーノス・オボクの家系譜（部分）



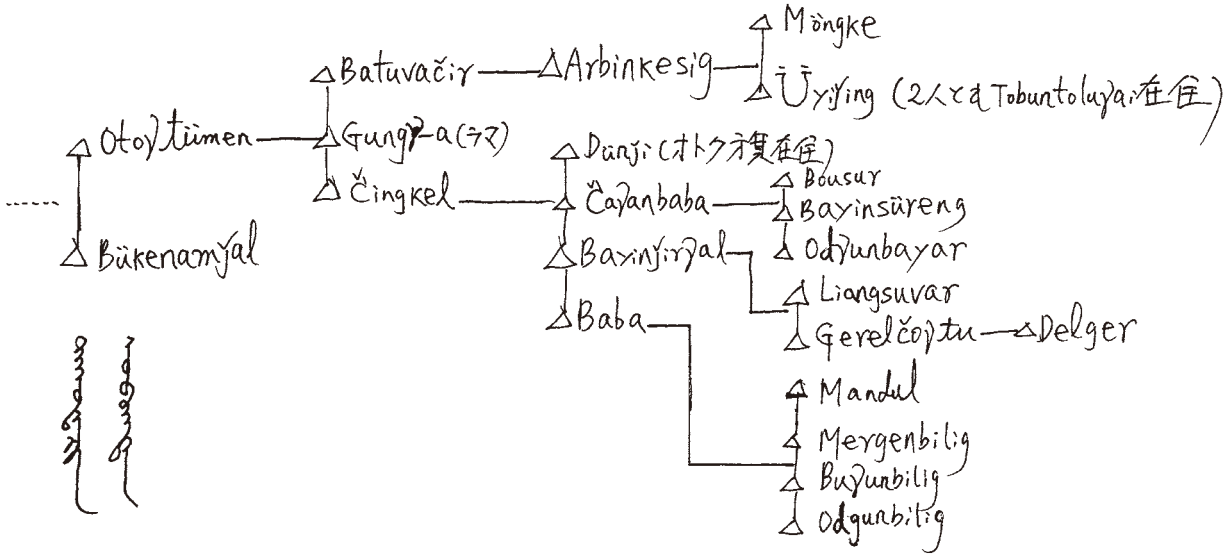
系譜図15：オルドス西部ウーシン旗シベル寺付近貴族の家系譜（部分）



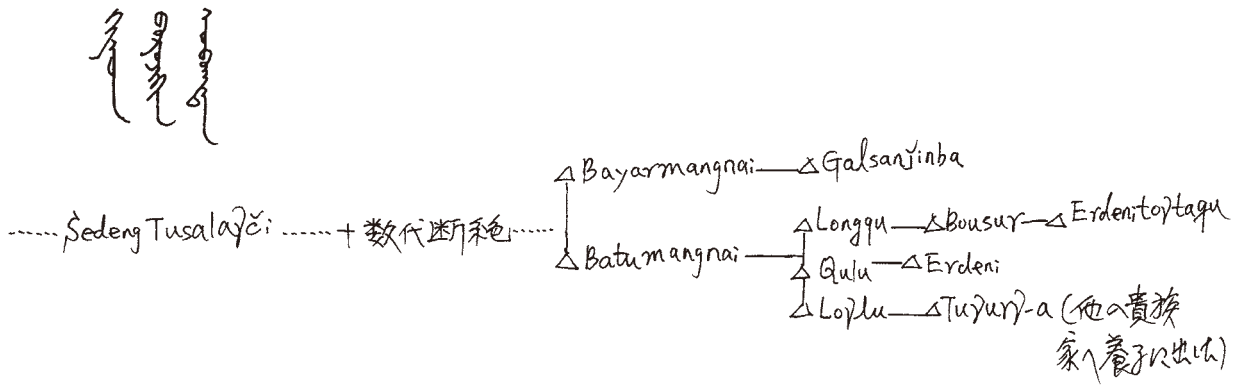
系譜図16：オルドス西部ウーシン旗東部に住むガタギン・オボクの家系譜（部分）



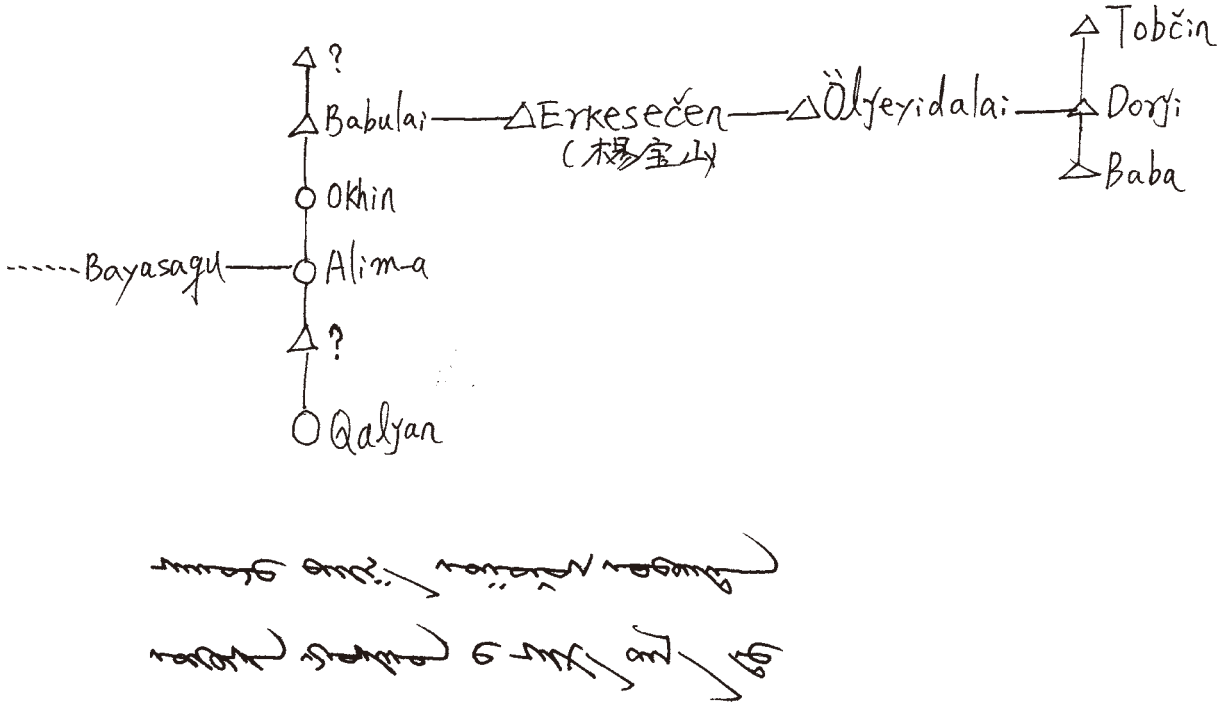
系譜図17：オルドス西部ウーシン旗エケレース・オボクの家系譜（部分）



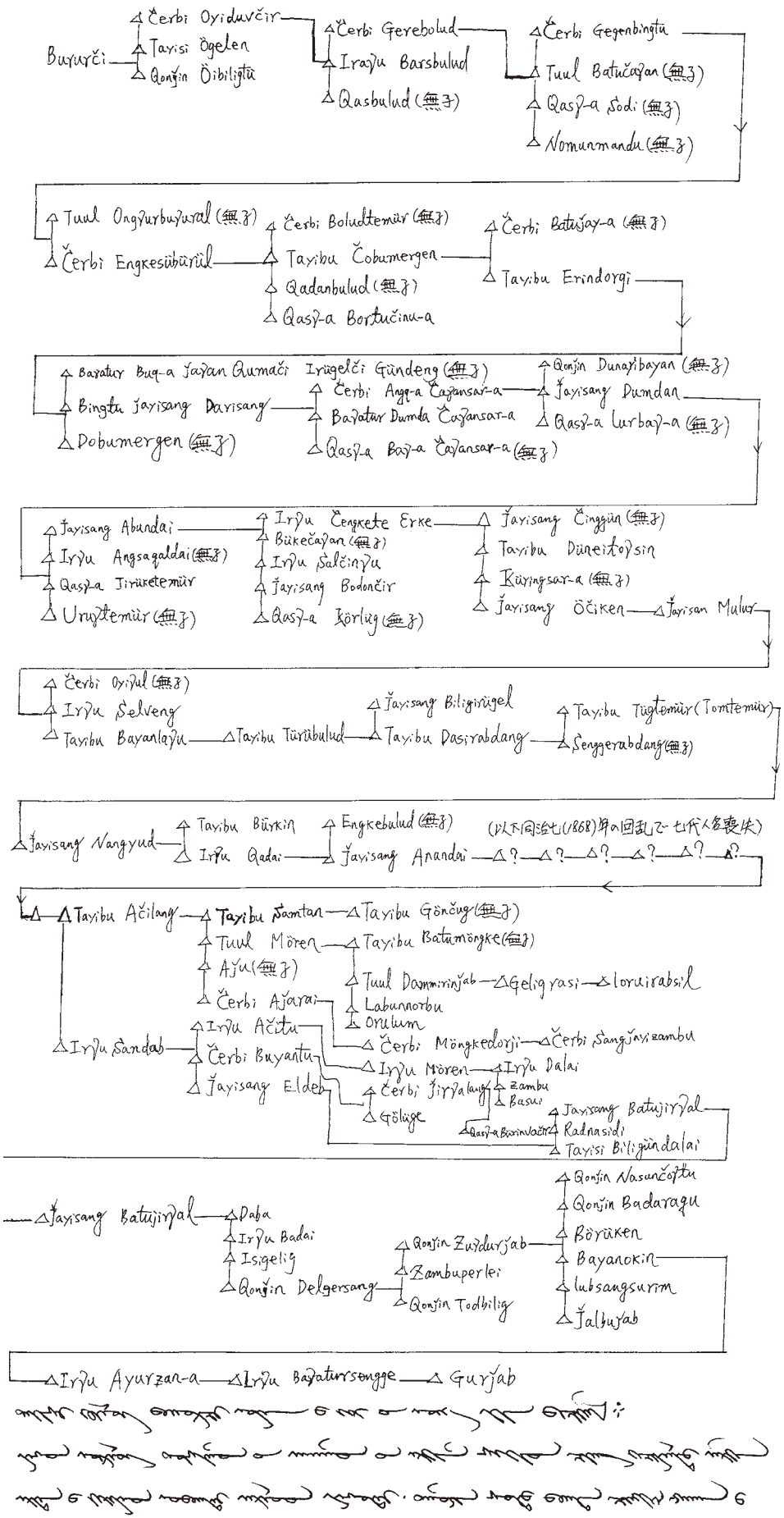
系譜図18：オルドス西部ウーシン旗ドーダーチン・オボクの家系譜（部分）



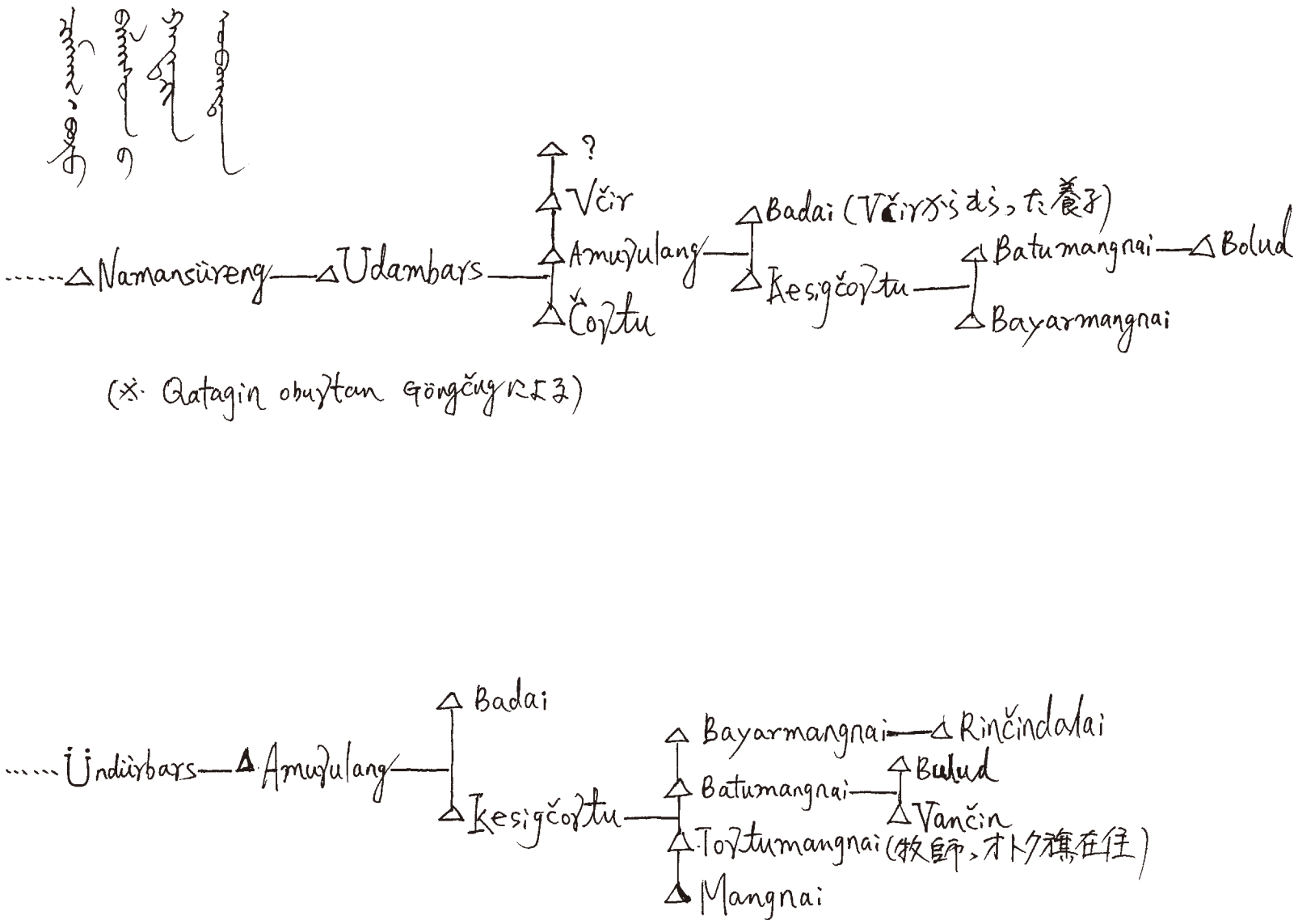
系譜図19：オルドス西部ウーシン旗チョーダイ平野に住む貴族の家系譜（部分）



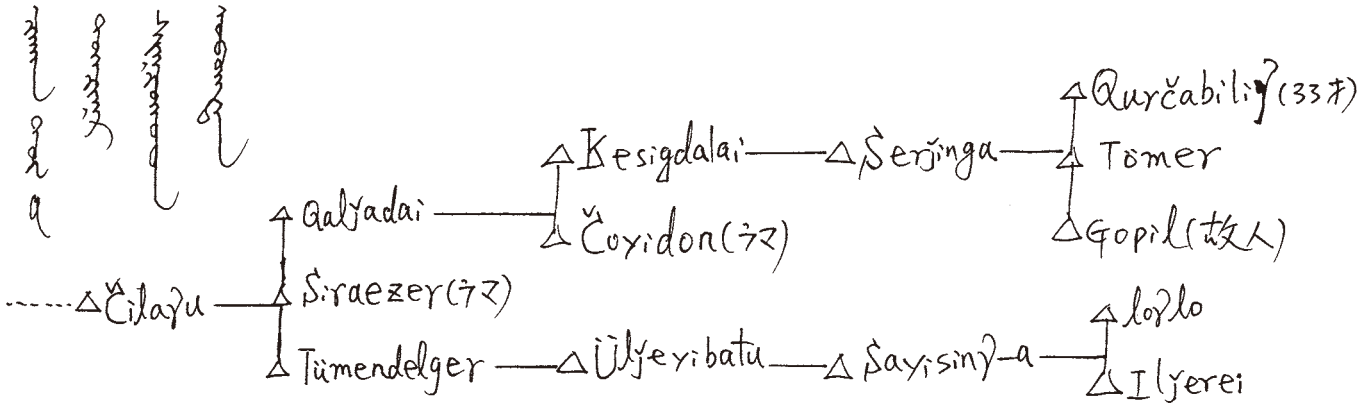
系譜図20：オルドス西部ウーシン旗オーノス・オボクの家系譜（部分）



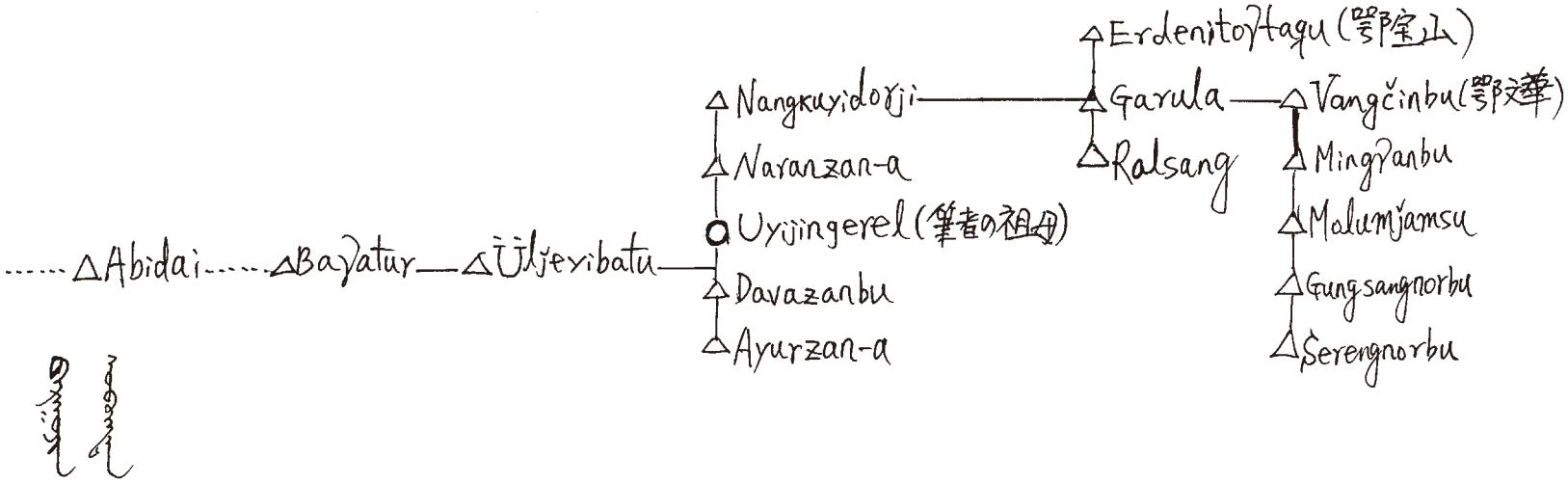
系譜図21：チンギス・ハーンの祭祀者ダルハトの家系譜（Buyurji家、部分）



系譜図22：オルドス西部ウーシン旗カトリック教徒ハダチン・オボクの家系譜（部分）



系譜図23：オルドス西部ウーシン旗シニチュート・オボクの家系譜（部分）



系譜図24：オルドス西部ウーシン旗バルグージン・オボクの家系譜（部分）